

# ゴビンダ通信

No 38

発行：無実のゴビンダさんを支える会  
事務局

Justice for Govinda

- Innocence Advocacy Group

June 3, 2009

支援者のみなさん、ナマステ！

無実のゴビンダです。

今日は、私のための集会に来てくださって、本当にありがとうございます。

寒かった冬もやっと終わり、暖かい春になりました。今は、桜の季節です。

ここ、横浜刑務所で、桜を見るのは、今年で6回目です。あと何回、ここで桜を見たら、自分の国に帰れるのでしょうか。ネパールにも桜の花はあります。早く、国に帰って、家族たちと一緒に、お花見がしたい。いつかきっと、その日が来ることを信じ、夢に見ています。

ここの暮らしは、厳しすぎます。毎日、「蜂の群れ」の中で暮らしているようなものです。小さなミスでも罰せられるので、片時も気をゆるめることができません。本当に罪を犯したのなら、あきらめることもできるでしょう。でも、やってもいないことで、このようなひどい扱いを受けるのは、本当に悔しくてたまりません。どんなにつらく、苦しいことが、こういう目にあった人にしか、とても想像できないでしょう。

私を逆転有罪にした東京高裁の元裁判長が、最近亡くなったそうです。今ごろはあの世で、真実 = 本当は私が無実だったこと = を知って、悔やんでいるかもしれない？

・・・でも、もう遅すぎます。あの間違った判決のせいで、私の人生も、私の家族たちの人生も、めちゃくちゃに壊されてしまったのです。

もう一度、公正な裁判をやり直してほしい。そして再審無罪になって国に帰りたい。それが私の望みです。でも、再審には、とてもとても長い年月がかかるそうです。みなさん、再審の署名をたくさん集めてください。そして、ここを出ることができる日まで、私のがまんできるよう支えつづけてください。ネパールの家族たちのことも、どうぞよろしくお願いします。

昨年の秋頃から、刑務所の面会が制限され、今までのように、みなさんと会えなくなってしまいました。とても残念でなりません。どうぞ私のことを忘れないでください。いつもみなさんに感謝して、みなさんのために祈っています。

”無実”ゴビンダ・プラサド・マイナリ

2009年4月1日横浜刑務所にて

## 「2009 無実のゴビンダさん支援集会」報告

4月4日、「2009 無実のゴビンダさん支援集会 ～ネパールに届けよう、正義の風を！～」を開催しました。今年は、65名の方々が参加してくださいました。初参加の方々もかなり多く、事件から12年、上告棄却から5年半の年月を経ても、この事件に対する世間の関心が失われていないことを実感しました。

今年は、在日ネパール人会（NRN）からも4名の参加があり、副会長グルンさんが、バッタ会長のメッセージを読み上げ、「日本のみなさんが1人のネパール人のためにこれほど長期間にわたり支援をしていることに感謝している。今後はNRNも団体会員に加わり、支える会の活動に協力していきたい」とのスピーチをしてくださいました。

ゴビンダ弁護団からは鈴木郁子先生が、再審をめぐる争点を見直すとともに、今後の展開に向けての弁護団の活動について、詳しく報告してくださいました。

また、無期刑の処遇や交通権の問題について、監獄人権センターの中元義明さんから、非常に貴重な講演をいただきました。

例年、ゴビンダさん支援集会は、他の冤罪事件の当事者や支援者の方々との交流の場にもなっていますが、今年は、布川事件、北陵クリニック事件に加え、渋谷事件（星野文昭さん）、足利事件、御殿場少年事件、三浦和義氏の逮捕に怒る市民の会からも、アピールしていただきました。さらに、和歌山カレー事件、波崎事件、名張毒ぶどう酒事件の支援者の方々も、会場でチラシを配布するなどしてくださいました。

これからも、再審に向けてゴビンダさんと家族を支えながら、冤罪支援の輪を拡げて行きたいと思っています。

\*ゴビンダさんから集会参加者への手紙（集会で朗読したもの）を1面に掲載しました。長文のため紙面の都合上、本人直筆の原文を活字に直しました。ご了承ください。

\*「解放新聞」（5月4日付）に、この支援集会の詳細な記事が掲載されました。

## ゴビンダさん面会報告

4月14日、2時半、「支援者、家族の友人」、「安否、一身上」と記載して面会室に入りました。出てきたのは「 」一つの若い刑務官でした。面会の趣旨は何ですかと型通りの質問。4月4日の支援集会の報告、ネパールの友人がラダさんと会い、近況を知りたいと頼まれた事、ゴビンダからも面会にに来てくれと手紙が寄せられていることなど、伝えました。

一つは上司と相談してきますと言い、ドアの外に。

戻ってきた一つは、「今回も面会させることはできません」と言います。理由を聞くと、「ゴビンダは再審をしているので、それを優先させるためです」。私は、「面会が厳しくなっているのは承知だから、あなた方の立場を考えて遠慮していた。今日は会わせろ」と、食い下がりました。私が以前に面会拒否になったことは、一つも書面を見て、「そうですね、でも前回は上司がそう、お伝えしている筈です」との答え。

再審優先等の理由は聞いていない、今回が初めてだ。と言うと、「集会の報告は客野さんでも出来る。蓮見さんも、西さんも、神田弁護士さんも来ているので心配はない。手紙は

制限がないから伝えたいことがあれば、手紙で済ませてください。この間もネパール人が3人来ましたがお断りしました」と言います。「私もネパールで家族と何回も会っているし、家族も私からの情報を聞きたがっている。今回は支援の会から派遣されてここに来ているのだから、面会させてもらい報告をしなければならぬ」と強く言いましたが、「前回、あなたにお会いした上司も、新しく来た上司も面会は認められないと言っています。代わった所長も同じ見解です」

「では、合わせてくれるまでここを動かないと言って、ここに座っていたらどうなりますか?」「非常ベルを鳴らします」「お願いします。鳴らしてください」「勘弁してしてくださいよ」「では、上司に私がそう言っていると伝えてください。非常ベルが鳴るまで待っていますから」「勘弁してくださいよ」そう言って席を立ち、ドアの外に出ました。振り向いて私の様子を見るかと思いましたが、そのままフレームアウト。分かり切った勝負はここのまです。次回に持ち越しです。(片川)

5月14日、新緑の美しい季節。まだ連休気分の続いている長閑な午後、横浜刑務所を訪ねました。と、門の前に立っている守衛が、全員大きなマスクをかけているのが、真っ先に目に入りました。どうやら外部から「新型インフルエンザ」を持ち込まれるのを警戒している様子。

「豚インフルエンザ、こわいです。もう国内で4人も(当時)出たんでしょ?」とゴビンダさん。ここは集団生活なので、もし1人が発症したら、みんなに伝染しやすいから大変なのだとのこと。

「連休中、何か特別なイベントでもあった?」と訊いてみました。すると、「何回か、ビデオを見せてくれました」とのこと。ホールに集まって全員で鑑賞するのではなく、それぞれの部屋にあるテレビで、特別のおやつ(ケーキ、せんべい、柏餅など)を食べながら見ることができそうです。

「ジャッキーチェンの『ドラゴン・キングダム』、最高でした!」

「あ、それ、私もレンタルショップで借りて見た。面白かった!」

「え、知ってるの!?!」

「アメリカ人の少年がタイムスリップして、石で固まってる孫悟空を助けに行くんだよね」

「あの長い髪の女が怖かったですよね。こんな風に・・・」等々。

ひとしきり、その映画の話題で大いに盛り上がりました。

「で、他には?どんな映画が面白かった?」と訊くと、ゴビンダさん、顔をしかめて、

「あとは日本の映画ばかりで、つまらなかった。日本人、映画作るの、下手ですね」

これには返す言葉なし。

現在、ゴビンダさんの最大の関心事は、「いつラダさんが来日できるか」ということ。「他の支援者と会えなくなってしまって寂しいので、できるだけ早く来てほしい、たとえば6月終わりから7月にかけて来れば、2ヶ月分まとめて面会できるのではないか」などと言っていました。「今、家族で相談してもらっている。こちらは家族からの返事待ち」と説明しているのですが、待ちきれない様子でした。(客野)

## 「なくせ冤罪！5・20大集会」報告

5月20日夜、東京・九段会館で開催された「なくせ冤罪！5・20大集会～明日からあなたも裁判官？」は参加者650人の大盛況でした。

もともと、この日は再審開始の門を大きく開いた「白鳥決定」の記念日ですが、今年は偶然にも、「裁判員制度」の開始前日にあたりました。これを機会に、冤罪の存在と刑事司法の問題を見直し、どうしたらこの社会から冤罪をなくすることができるのか、みんなで考えていきたいとの趣旨で、名張毒ぶどう酒事件、布川事件、大崎事件、東電OL殺人事件、痴漢デッチ上げ沖田国賠訴訟、北陵クリニック事件などを中心とする実行委員会が結成され、このような大きな集会を企画しました。

呼びかけ人代表（鈴木亜英・日本国民救援会会長）の開会挨拶に続き、第一部では、講師の田辺凌鶴さんが「死刑と裁判員」と題した辛口の講談を披露。否認事件の裁判に初めて参加した裁判員の戸惑いや悩みを通して、評議で無罪を主張しても量刑の判断に加わらなければいけないことなど、裁判員制度の問題を鋭く指摘しました。第二部は、構成劇「冤罪はこうして作られる」。本集会のため実行委員会が企画したオリジナル作品で、冤罪が作り出される構図を、実際の冤罪事件の例を盛り込みながら、わかりやすく描き出しました。プロの役者他十数名による熱演ぶりが大好評でした。

最後に、佐藤光政さんの「ゆらゆら春」熱唱のあと、冤罪事件の当事者を代表して、沖田光男さん、守大助さんのご両親、杉山卓男さん、桜井昌司さんが挨拶。冤罪をなくす闘いへの広範な支援を訴えました。

### 事務局からのお知らせ

#### 家族来日の予告

ゴビンダさんの希望により、妻ラダさんを、6月23日から2週間ほど、日本に招くための準備（査証取得等）を進めています。最大の目的はもちろんゴビンダさんとの面会ですが、ラダさんを激励し、支援者との信頼関係を深めるための「囲む会」も計画しています。スケジュールが確定したい、ホームページやメーリングリストにてお知らせします。毎度恐縮ですが、来日カンパ、よろしく願いいたします。  
事務局会議：隔月第2火曜日 午後6時～8時 現代人文社：四谷駅下車徒歩8分

< 次回は2009年7月14日（火） >

ゴビンダさんは、最近、支援者との面会ができなくなったため、よりいっそう手紙を楽しみにしています。どうぞ激励の手紙を書いてあげてください。平仮名、カタカナ、簡単な漢字なら読み書きできますが、お名前にはフリガナをお付けください。

【〒233-8501 横浜市港南区港南4-2-2 ゴビンダ・プラサド・マイナリ様】

#### 無実のゴビンダさんを支える会 事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷2-10ハッ橋ビル7階 現代人文社気付 TEL：080-6550-4669

e-mail：govinda@jca.apc.org ホームページ <http://www.jca.apc.org/govinda>